



渡辺 大直

牛が体をなめた時に口に入
た毛が胃袋の中でボール状に

若い頃、農家の牛舎に行く
と、牛の無病息災や安産を願
うお札が貼ってあった。こ
うしたお札を頂く「祭り」を行
う神社やお堂、お寺は県内各
地にあつて、昔は牛を連れて
お参りした所もあったとい
う。しかし、牛を飼う農家が
減り、こうした習慣が残って
いる所も少なくなつたが、香
美町小代区東垣の大日堂で続
いていると聞き、行つた。



畜産農家の信仰を集める大日如来像がある大日堂。但馬牛の
安産や無病息災を祈る＝香美町小代区東垣

無病息災託す「大日さん」

なつたもので、まれに吐き出
すことがあり、幸運を呼ぶと
言われる。

こうした習慣は牛を農耕に
使つた西日本で見られ、神社
は牛頭天王をお祀りする所が
多いが、お寺はほとんど「大
日さん」で、大日如来は牛と

関わり深い仏様のようだ。

但馬牛物語には、神功皇后
が播磨国飾東郡の八重鉾山に

駐屯された時、樋の山に一群
の霊牛が現れ、国中の疫病を

避けるとして光を放つて東方
へ去ると大日如来が現れたと

言い、大日さんに牛の無病息
災を願ひ、お守りを受ける習

慣になつたという伝承が
紹介されている。ただし、わ

が国の大日信仰は空海が真言
宗を広めた後なので、これは

後世に作られた話のようだ。

猪名川町には「島の大日さ
んの牛」という民話がある。

島村の源作翁さんの牛が病氣
になり、種々手を尽くすが治

らず瘦せ細つていった。そん
な時、翁さんの夢枕に大日さ

んが立ち、寺の広場の松を3
回まわるようお告げがあつ

た。翁さんがその通りにする
と牛の病が治つた。この話が

広がって大日さんに牛の無病
息災を願うようになり、大日

堂にある石の牛は翁さんがお
札に献じたものだといふ。

ほかに大日如来は農耕や運

輸の守護仏で、牛になつた
たとする説もある。

また、大日講を造つて資金
を集め、順番に耕牛を導入し

た記録もあり、牛を農業のパ
ートナーとして一つ屋根の下

で家族同様に暮らす中で、こ
んな習慣が生まれたのだろ

う。

東垣のお堂には囲炉裏があ
り、お参りが済むと囲炉裏を

囲んで甘酒を飲みながら話を
する。私もその中に入れても

らつた。話はやがて牛の話題
になった。ここに来るのは地

元の農家がほとんどだが、他
所の牛飼ひも訪れるようで、

情報交流の場であつたのかも
知れない。

さらに隣の公民館で手打ち
そばやゆづ湯もごちそうにな

り、牛と大日さんによる地域
文化の一端を見たような気が

した。

その日の夜中、牧場公園の
牛舎で28頭の大きな雄牛が

無事産まれた。

■筆者プロフィール■
わたなべ・ひろな
お 1954年、新温泉
町浜坂出身。県職員
として畜産行政に長
年携わってきた。県
立但馬牧場公園「但
馬牛博物館」館長。